

## 令和7年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

米麦畜産課  
(農産振興室)

生育ステージ	早期：穂ばらみ期～出穂期（コシヒカリ） 早植：分けつ盛期～幼穂形成期 普通期：田植期～分けつ後期
生育概況	早期：生育は順調で、出穂期は平年並～やや早まると見込まれる（コシヒカリ）。 早植：生育は概ね順調。高温で経過しているため、藻類、ガス害の発生が多い。 普通期：移植後低温多雨で生育緩慢だったが回復傾向。その後高温で経過しているため、植え傷みや除草剤による薬害、藻類、ガス害の発生が多い。

## 1 気象経過（前橋地方気象台の気象データ、7月は第3半旬までのデータ、参考資料参照）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+1.4℃	+0.1℃	+2.8℃	+2.9℃	—	—	—
降水量(平年比)	114%	166%	82%	69%	—	—	—
日照時間(平年比)	104%	86%	128%	113%	—	—	—

## 2 生育概況

## (1) 概要

## ア 早期・早植栽培（6月15日以前の田植）

早期栽培は、茎数は確保されており生育は順調。6月中旬以降高温のため「コシヒカリ」の出穂期は平年並～やや早まる見込み。

早植栽培は、生育は概ね順調。高冷地、中山間地の初期生育は、低温多雨により緩慢であったが回復傾向。高温の影響により、除草剤による薬害、ガスによる下葉の枯れ、藻類の発生が目立つ。出穂期は平年並み～やや早まる見込み。

## イ 普通期栽培（6月16日以降の田植）

移植後の高温による植え傷み、除草剤による薬害、ガスによる下葉の枯れや赤枯症状、生育抑制が特に麦跡ほ場で多く見られる。藻類が多く、一部では欠株の発生も見られる。

## (2) 病害虫・障害等の発生状況

## ア 早期・早植栽培

育苗期間では、育苗後半にもみ枯、苗立枯が一部で見られた。

本田害虫では、中山間地域でイネミズゾウムシがやや多い。東毛地区ではイナゴ類、斑点米カメムシの発生が多く、イネカメムシが移植の早いほ場内で見られ始めている。

障害では、藻類の発生、ガス害の発生が多い。

イ 普通期栽培

障害では、藻類の発生、ガス害の発生、除草剤の薬害が多い。

(3) 作況ほ等の調査結果

ア 作況ほの調査結果（表1）

県平均の移植後20日の草丈は30cm(過去平均比100%)、茎数は175本/m<sup>2</sup>(同98%)、移植後40日の草丈は58cm(同105%)、茎数は510本/m<sup>2</sup>(同105%)であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

稲麦研究センター（6月24日移植）

「あさひの夢」の移植後20日の草丈は37.4cm(奨励品種決定調査過去10か年平均比101%)、茎数は459本/m<sup>2</sup>(同142%)であった。

東部地域研究センター（6月3日移植）

「あさひの夢」の移植後20日の草丈は32.1cm(奨励品種決定調査過去10か年平均比99%)、茎数は367本/m<sup>2</sup>(同104%)、移植後40日の草丈は63.3cm(同95%)、茎数は491本/m<sup>2</sup>(同80%)であった。

表1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）（）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後20日調査			移植後40日調査		
		か所数	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	か所数	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>
県	6/5(-1)	12/15	30(100)	175(98)	6/15	58(112)	510(105)
中部	6/15(0)	4/4	39(117)	214(109)	0/4	—	—
西部	6/9(-1)	3/4	30(99)	136(88)	2/4	64(100)	496(111)
北部	5/20(-1)	4/4	27(96)	182(102)	4/4	55(120)	518(103)
東部	6/18(-1)	1/3	27(80)	104(62)	0/3	—	—
早期・早植	5/26(-2)	8/10	28(98)	176(91)	6/10	58(112)	510(105)
普通期	6/23(+1)	4/5	35(102)	172(118)	0/5	—	—

- 注1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。  
 2) 移植期欄の（）内の「-」は早い、「+」は遅いを示す。  
 3) 7月15日現在で調査時期となったほ場のみで、か所数欄は「調査か所/設置か所数」を示す。  
 4) 早期・早植：6月15日以前の田植。普通期：6月16日以降の田植。  
 5) 桐生市は前年担当農家変更のため、県、地区、作型平均から除外した。  
 6) 館林市は担当農家変更のため、県、地区、作型平均から除外した。

(4) 作柄のまとめ（表2）

各地域の作柄は、すべて「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表2 地帯別作柄概況（）内は農畜産課・地区農業課

地域別	作柄	作柄概況
中部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・早植栽培：分けつ後期～幼穂形成期。移植作業は順調に進んだ。除草剤の薬害、ガス害、藻類の発生が目立つ。山間部ではイネミズゾウムシ、斑点米カメムシが散見される。 ・普通期栽培：田植期～分けつ後期。麦の収穫遅れにより、一部で移植が平年より5～7日遅れる見込み。麦跡ほ場ではガス害や赤枯れ症が多い。藻類の発生が多く、植え傷みや除草剤の薬害も散見される。
西部 (西部) (藤岡)	並	・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。初期生育は緩慢だが回復傾向。藻類の発生が多い。 ・普通期栽培：活着期～分けつ盛期。麦の収穫遅れにより、移植は平年よりやや

(富岡)		遅い。麦跡ほ場ではガス害や赤枯れ症が多い。藻類の発生が多く、除草剤の薬害も見られる。
北 部 (吾妻) (利根 沼田)	並	・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。育苗時には、一部でもみ枯細菌病や苗立枯病が散見された。初期生育は緩慢だが回復傾向で、茎数は確保できている。藻類が多く、イネミズゾウムシがやや多い。高温により赤枯れ症が散見され、葉色が落ちているほ場では、生育後半の肥切れが懸念される。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	・早期栽培：幼穂形成期～出穂期（コシヒカリ）。幼穂形成期～減数分裂期（あさひの夢、にじのきらめき）。生育は順調で茎数は確保されている。コシヒカリの出穂は6月中旬以降の高温により平年並～やや早まる見込み。斑点米カメムシ類（イネカメムシ）、イナゴ類、藻類が多い。 ・早植栽培：分けつ盛期～幼穂形成期。イナゴ類、藻類、ガス害が平年より多い。イネカメムシの本田侵入が見られ始めている。中山間地では、イネミズゾウムシの発生が散見される。 ・普通期栽培：分けつ前期～分けつ盛期。分けつは順調に進んでいる。藻類・ガス害が多い。

### 3 技術対策

#### (1) 全般

気象庁の向こう 1 か月および 3 ヶ月の長期予報では、高温傾向が続くことが予想されているため、高温による生育の前進が見込まれる。また、穂ばらみ期～登熟期が高温となった際は、不稔や白未熟粒・胴割粒等の発生が懸念される。

#### (2) 早期・早植栽培

ア 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

イ 病害虫は、天候や今後の発生状況および発生予察情報を踏まえ、適期防除に心がける。ばか苗病の発生が見られる場合は、株ごと抜き取りを行う。

ウ 穂ばらみ期から出穂後 7 日までは、湛水管理とし、それ以降は間断かん水を基本とする。ただし、穂ばらみ期以降に高温が続く場合は、田面の高い部分が水で隠れる程度にかん水し、足跡に水が残る程度に自然減水したのち、再びかん水を実施する「飽水管理」を繰り返したり、夜間入水の実施や、かん水回数の増加で地温低下を図る。なお、掛け流しかん水は用水不足となるためなるべく控える。また、出穂後の高温・強風時や台風襲来時は、風がやむまで湛水管理を行い、品質低下を防止する。

#### (3) 普通期栽培

ア 水管理は浅水で管理を行い、分けつの確保を図ることを基本とするが、水温が高い場合はこまめなかん水の実施で水を入れ替え、地温低下を図る。

イ 有機物の分解によるガス害が懸念されるほ場では、間断かん水や軽度の中干しによりガスの放出を促す（夜間落水、日中入水）。有効茎が確保できたほ場では中干しを開始し、生育量の制御と根の健全化を図る。

ウ 中干し後は根腐れ防止のため間断かん水を基本とするが、高温が続く場合には飽水管理を実施する。

エ 中干しに合わせ、ケイ酸カリ（20～40kg/10a）または塩化加里（10kg/10a）の追肥を行い、根の機能回復を図る。

オ 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

カ 天候や病害虫の発生状況および発生予察情報を踏まえ、適期防除を心がける。ばか

苗病の発生が見られる場合は、株ごと抜き取りを行う。稲こうじ病の発病履歴のあるほ場では、薬剤により防除適期が異なるが出穂 20～10 日前を目安に防除を行う。

《参考資料》

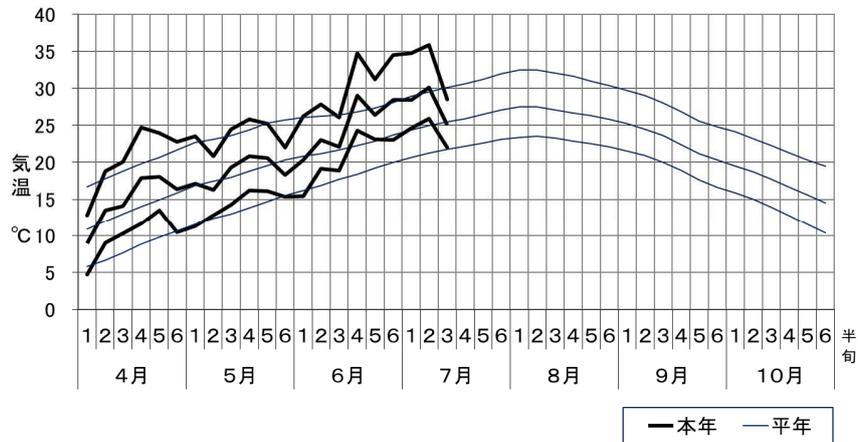


図1 稲作期間の気温（前橋地方気象台）

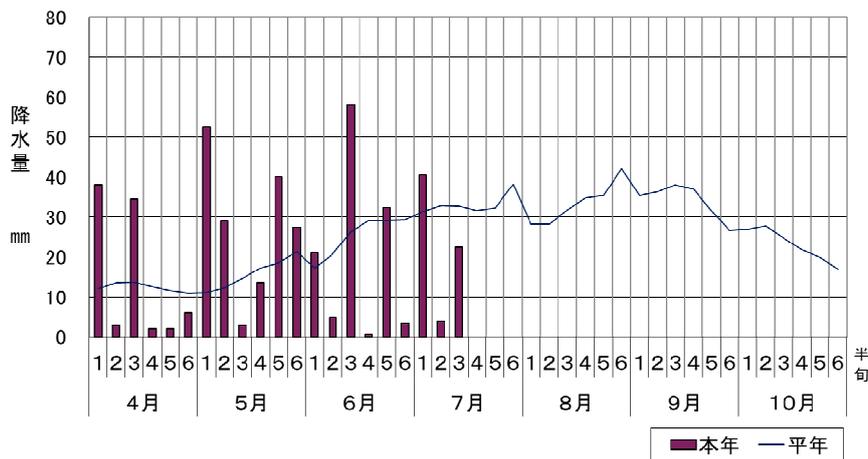


図2 稲作期間の降水量（前橋地方気象台）

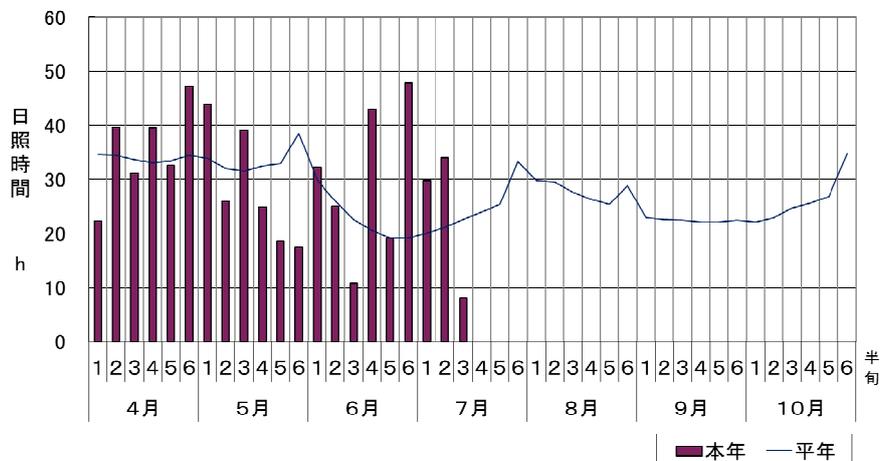


図3 稲作期間の日照時間（前橋地方気象台）